

ネパール SNS 禁止デモ (618 号)

2025 年 9 月 石館

今までネパールでは、セメント工場やカトマンズ市の配電網など日本のODA資金を使って建設してきたことがあり、日本の商社では最もネパールに深く食い込んでいると言われてきた。小生もこの国が好きであり何とかこの国のために役に立ちたいと思い再三ネパールを訪れてきた。



先日吉祥寺に買い物に行ったとき、昼食時になったので、近くに食べる場所を探したところネパール料理屋があったので懐かしいので入ってみた。ネパール料理は、米や麺を主食とし、豆や野菜、肉類を使った栄養バランスの取れたシンプルな料理が特徴である。

小生はこの素朴なネパール料理が好きでネパールではほぼ毎日食べていた。

この料理屋に行ってから数日経って、ネパールの首都カトマンズで、主要な SNS 利用を禁じた政府に抗議する大規模デモが 8 日に発生した。一部が警察と衝突するなどして 19 人が死亡したほか、300 人以上がけがをした。

偶々ネパール料理を食べに行ったすぐあとで、このような事件がネパールで起きるとは想像もしていなかったのが驚いた。禁止措置が導入される数週間前には、政治家の子供たちの贅沢な生活様式や汚職疑惑を告発するキャンペーンがソーシャルメディア上で広がっていた。

政府は 9 月 4 日、フェイスブックやユーチューブなど 26 のソーシャルメディア・プラットフォームの使用を禁止。これを受け、数千人の若者が首都カトマンズに集まり、議会庁舎に押し寄せる事態に発展した。

ネパール政府は、8日緊急の閣議を開き、禁止措置を撤回し、オリ首相は辞任した。オリ氏は9日、ポードル大統領あての辞表で、“国内の悪化した状況を踏まえ、憲法に基づく政治的解決を図るため、本日付けで辞任する”と表明した。辞表は受理され、ポードル氏が後任の選出に向けた手続きと協議を開始した。



政府はサイバー犯罪やフェイクニュースの増加を理由に、1年以上前からSNSの規制を模索してきた。しかし、汚職が取り沙汰されるオリ政権が批判封殺や報道規制を試みていると見る向きは多い。

今回のSNSを巡る決定が、若者の間で長年くすぶっていたオリ政権への不満に火をつけた。政府は9日、外出禁止令を出したが抗議は更に過激化。カトマンズ国際空港は閉鎖された。

今回のSNSを巡る決定が、若者の間で長年くすぶっていたオリ

ネパール国内には、インスタグラムやフェイスブックなどのプラットフォームのユーザーが数百万人いる。ネパールは観光が経済の柱で、多くの関連業者がSNSに営業を依存している。貧しさゆえに出稼ぎに出る国民も多く、海外在住者にとって母国にいる家族とのつながりを保つ手段でもあり、政府が想定した以上に反発が強かったようだ。



警察と衝突するデモ参加者

また固定電話の通信網は不十分であり、SNSが主要な通信手段となっている。

このデモはSNS禁止に対するものだけでなく、議員

の汚職に対する抗議でもあった。抗議活動への参加者は若者が多く、“Z世代抗議者”と呼ばれている。

Z世代とは；1996－2012年に生まれた若い世代を指す。Z世代の前の世代を

X世代、Y世代と呼びアルファベット順で考えると、次はZとなるため。

世界中のZ世代が、生まれた時からインターネットで得られる大量の情報にアクセスし、モバイルデバイスやSNSを使いこなしている。

ネパールは人口構成比が若く、24歳までの人口は約55%もあり（日本は20%にもならない）、SNSを使いこなすことに慣れたZ世代がこれからの国を支えていくのであり、今回のZ世代のデモはこの国の将来に大きな影響を及ぼすであろう。

ネパールの国土は北海道の約1.8倍、人口は3000万人弱である。一人当たりのGDPは約1300ドルでアジアの中でも最貧国の一つ。日本は米国、英国と並び3大援助国の一つである。

2008年にネパールの王政は廃止されたものの、それまで培われた、皇室王族間の交流の他、国会議員の交流、経済、技術交流等があり、日・ネパール関係は伝統的に良好である。



人気観光スポット・タルバール広場

先に述べたようにネパールは観光が経済の柱で素晴らしい観光資源がいくつも国内に散らばっている。

古都の建造物は2015年の大地震でかなり破損したが、今は殆ど修復され昔の姿を保っている。また自然の観光資源であるヒマラヤ山塊のエベレストやアンナプルナは神々しいまでの姿を保っている。

ネパールは電力や道路などのインフラ整備が遅れており、学校や病院へのアクセスが困難な地域が多く存在している。特に山岳地帯では、山の斜面に集落が点

在している状態で、飲料水を確保するために標高差のある山道を往復しなければならない。



世界の屋根」ヒマラヤ山脈と世界最高峰「エベレスト」ネパール...

神々しいばかりのヒマラヤ山脈とエベレスト

ネパールでは貧しい人々が直面している様々な格差がある。カーストや民族間の格差も深刻である。2011年の国勢調査によるとネパールには123の言語と125の民族・カーストが存在している

ことが明らかになった。カースト制度は1963年に憲法によって禁止されたがその慣習は現在も残っており、上位カーストと下位カーストの間や民族間にあらゆる格差が生じている。特に女性や低カースト層には教育や就労の機会が限られているという問題がある

教育格差の中でも、男女間の教育格差が顕著である。ネパールには児童婚の慣習があり、女子は15歳までに10%、18歳までには41%が結婚し、教育の機会が奪われている。そればかりか、発育が不十分な状態での妊娠・出産による心身への大きな負担も問題である。

ネパールの貧困率は30年前には40%弱であったが、2019年には20%弱と改善しているが、山岳部の貧困率はいまだ高く今後大きく改善することはないのではないかと



ネパール暫定首相に女性初の元最高裁長官 2026年3月に総選挙...

12日ポーデン大統領により暫定首相に任命されたカルキ氏

今回のZ世代を中心とする8日からのデモでは12日までに少なくとも51人が死亡したと警察当局は発表した。

カルキ氏はデモを率いた若者からの支持が多かった。同氏はネパールで初の女性首相となる。近く議会は解散する見通し（来年3月）。総選挙を経て誕生する新政権の発足まで、カルキ氏の暫定政権が混乱の收拾を担う。カルキ氏は2016年から17年まで、女性として初めてネパールの最高裁の長官を務め、国民の間で広く尊敬されている。

ネパールでは親中派として知られるオリ前首相が所属するネパール統一共産党の他、連立政権を組む政党ネパール会議派、ネパール共産党毛沢東主義派などの政党が有力。権力闘争と汚職が絶えない状況が続く、国民は不満を募らせてきた。

東南・南アジアでZ世代の政府への不満が連鎖する。2024年にはバングラディッシュで公務員の採用の特別枠を巡り反政府デモが起き、ハシナ政権が倒れた。スリランカでは22年のデモで大統領が辞任した。直近ではインドネシアで反政府デモが広がっている。

ネパールは大国中国とインドのはざまで常に揺れている。今回の政権崩壊で中印それぞれが暫定政権や選挙後の新政権にどのような形で接近するのか注目される。